

<白金標準、WPIC は 2 年連続の供給不足を示唆・・・>



(出所：オアシス)

WPIC 第 4 四半期 PGM 需給報告では、2023 年のプラチナ需給バランスは 27 トンの供給不足を示唆している。また 2024 年も 13 トンの供給不足を予想するなど 2 年連続の供給不足を指摘している。また地上在庫は、2022 年の 152 トンをピークに 2023 年が 124 トン、2024 年には 111 トンまで縮小を予想しており、その地上在庫の 8 割が中国国内に存在するなど西側諸国で供給不足を補うことは難しい状況である。ただプラチナ投資の課題は、価格が基調的なファンダメンタルズに対応していない事が挙げられており、特にコロナ禍と半導体不足を受けて自動車メーカーでは 3000 万台以上の過少生産となっていた時期に積み増されたプラチナ過剰在庫の管理が行われているためと指摘している。しかし自動車メーカーの在庫管理プロセスはほぼ一巡すると推測しており、近い将来にレンジ相場は価格がボックス圏を抜けだす動きを示すと見られ、900 ドルを固めながら 1000 ドルに向けた動きが強まると思われる。そのため 4300 円を固めながら 4400 円へ向けて値動きを強めて来ると思われ、逆張りの対応が無難と思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が横ばいし、**シグナル** も横ばいしている。また RCI は**短期**が上昇し、**長期**も上昇しており、**10 日移動平均線** (4310 円) で下げ渋る値動きを続ける可能性は強まると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,390,000 円(2024 年 3 月 11 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 73,920 円(2024 年 3 月 11 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当日本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>